

令和7年度東京都補助「獣医公衆衛生学術振興事業」

SFTS 疑いネコ・イヌの 診療簡易マニュアル

2026年3月改訂



公益社団法人 東京都獣医師会

はじめに

本マニュアルは、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を日常的に診療対象としない小動物臨床獣医師が、自らの診療現場において SFTS が疑われる症例に遭遇した際、適切な診療および共有意思決定（SDM）を行うために必要と考えられる事項を簡潔に整理したものです。実践的な指針を示すことを目的としており、SFTS に関するすべての知見を網羅するものではありません。

また、臨床現場においては、同一疾病であっても典型的所見を示さない症例が存在することは周知のとおりであり、本病も例外ではありません。

SFTS は、発生件数自体は限定的であるものの、動物のみならずヒトでも致死率が高く、特に動物を診療する過程で病原体に曝露する機会を有する獣医療関係者にとって、職業感染のリスクが相対的に高い人と動物の共通感染症です。

本マニュアルが、診療にあたる獣医師が自らを含む関係者の安全にも十分配慮しながら、飼育者および地域社会に対する公衆衛生上の責務を果たすことを支援する一助となることを期待しています。

近年、致死率の高い新興・再興感染症の発生が国内外で報告されています。獣医師法第 1 条の趣旨に則り、日々診療の現場に立つ臨床獣医師が、動物の保健衛生の向上と公衆衛生の確保に寄与する専門職としてその職責を果たし、今後とも社会の信頼に応えながら適切な診療を継続できるよう、知識・情報の共有と協力体制の構築に会員各位のご協力を賜りますようお願いいたします。

目 次

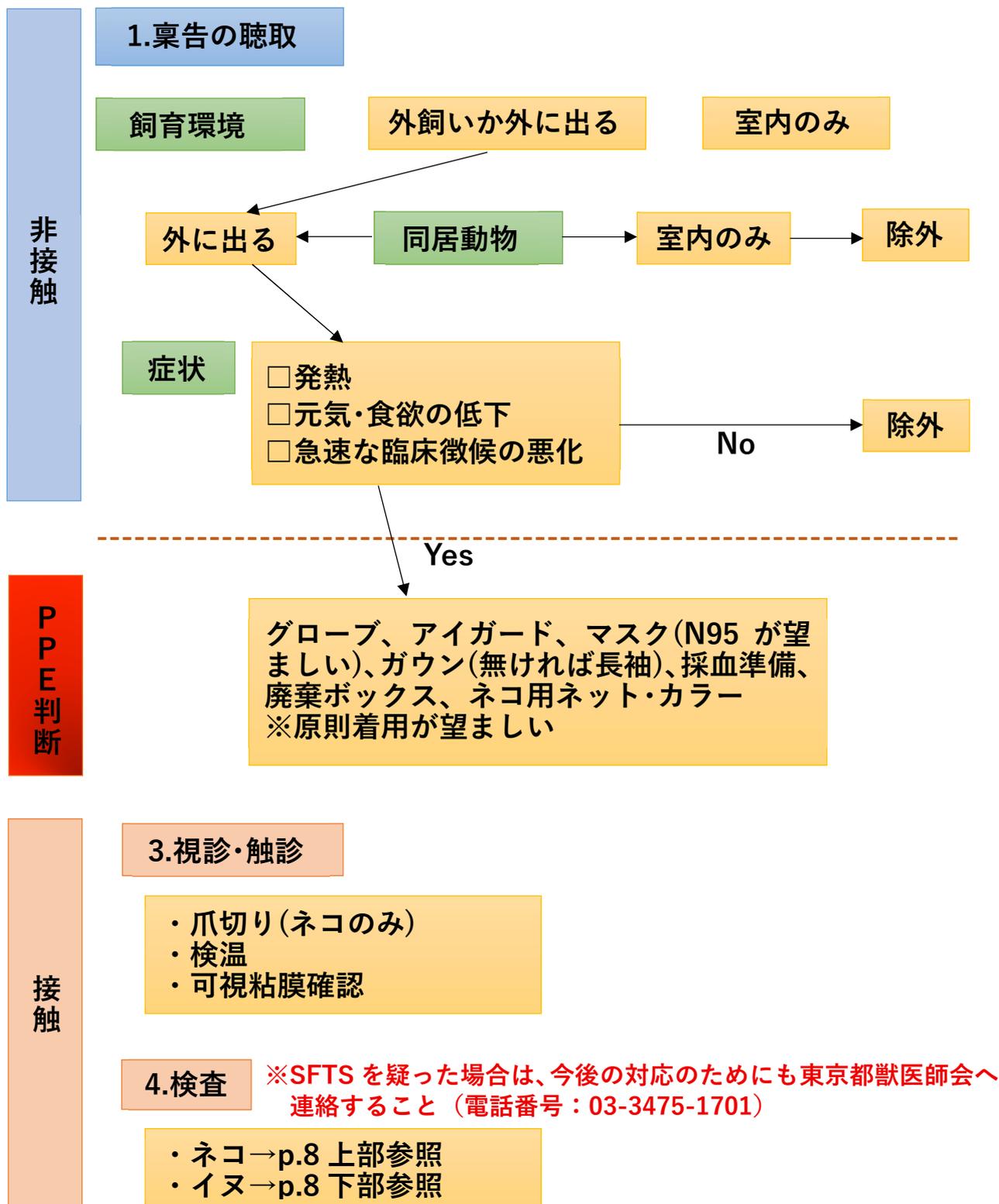
はじめに	
SFTS の概要	1
I. SFTS 疑いネコ・イヌの診療フロー	2
動物（特にネコ）の SFTS の臨床鑑別	3
II. 診断フロー（ネコ）（イヌ）	4
清浄域・汚染域	6
採材・血液検査時の注意点	7
サンプルチューブ	7
個人防護具（PPE）	8
診療後の動物病院スタッフの健康管理	11
SFTS の確定検査	12
SFTS 検査依頼の仕方のフローチャート	12
確定検査依頼先	13
検体輸送資材（感染性物質輸送容器）推奨例	13
配送業者	14
梱包手順	14
SFTS 検査依頼書	16
回復動物の経過	17
退院のタイミング	17
飼い主へ説明しておく方が望ましいと思われる項目	18
SFTS 疑い事例の診療同意書	20
死体の取り扱い	22
SFTS の関係法令	23
参考資料	
飼い主向け啓発ポスター	24
鑑別診断リスト	25
補足資料	29
参考（引用）文献	30

SFTS の概要

- ・ SFTS (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : 重症熱性血小板減少症候群) はマダニの吸血により伝播する感染症で、ネコ科動物の感受性が高い。
- ・ ネコ及びイヌからヒトへの感染に注意すべきである (ヒトと動物の共通感染症)。
- ・ 致死率はネコでは60%以上、ヒトは27%と報告されており、イヌでも死亡症例がある。
- ・ ネコでは臨床徴候が急速に悪化して数日以内に死亡する。
- ・ 咬傷、擦傷により感染する可能性がある。
- ・ 診断及び治療には個人用防護具 (Personal Protective Equipment: PPE) が必須 (p.8 以降参照)。
- ・ 治療には入院隔離が原則必要。
- ・ SFTS の確定検査は検査機関に依頼する (p.12 参照)。
- ・ 確定検査には、結果が判明するまで3~7 日程度かかる場合がある。
- ・ ネコ・イヌの治療に特效薬はなく、対症療法のみ。
- ・ 症状が改善してもウイルスの消失には時間がかかる(遺伝子検査で陰転を確認する必要がある) (p.17 参照)。
- ・ ダニの駆除剤は必須と考えられるが、完全な対策ではない。

I. SFTS 疑いネコ・イヌの診療フロー

※必ずしもすべての症状が認められるわけではない



動物（特にネコ）の SFTS の臨床鑑別

	身体検査	血液検査
高頻度 (ほぼすべての症例)	<ul style="list-style-type: none"> 発熱 外出歴 (同居ねこも含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 血小板減少 T-Bil 上昇 (特に猫)
高頻度	<ul style="list-style-type: none"> 元気・食欲の低下 急速な状態の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 好中球減少 CK 上昇
中～高頻度	<ul style="list-style-type: none"> 消化器症状 (主に嘔吐) 黄疸 	<ul style="list-style-type: none"> 凝固系異常 (D-dimer など) BUN 上昇 肝酵素値上昇 (ALT、LDH など)
中頻度以下	<ul style="list-style-type: none"> マダニ寄生 出血症状 神経症状 	
鑑別疾患		
<ul style="list-style-type: none"> 敗血症 感染性疾患 (パルボウイルス、FIP、レプトスピラなど) リンパ腫 血液疾患 (IMHA、ITP、造血器腫瘍など) 		

2025.6.30 獣医臨床感染症研究会 セミナー配布資料

SFTS ウイルスに感染した猫や犬は西日本から東日本までの広い地域で発見されている。診断を進めるに当たって、

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 外に出る、あるいは野外に住んでいる動物 2. 発熱 3. 元気、食欲低下 4. 急速な臨床徴候の悪化 |
|--|

という4点が重要だが、次に臨床検査を行って以下の異常がみられるとされている。

猫

白血球減少症
血小板減少症
黄疸 (TBil 高値)
AST、CK 高値
SAA 高値

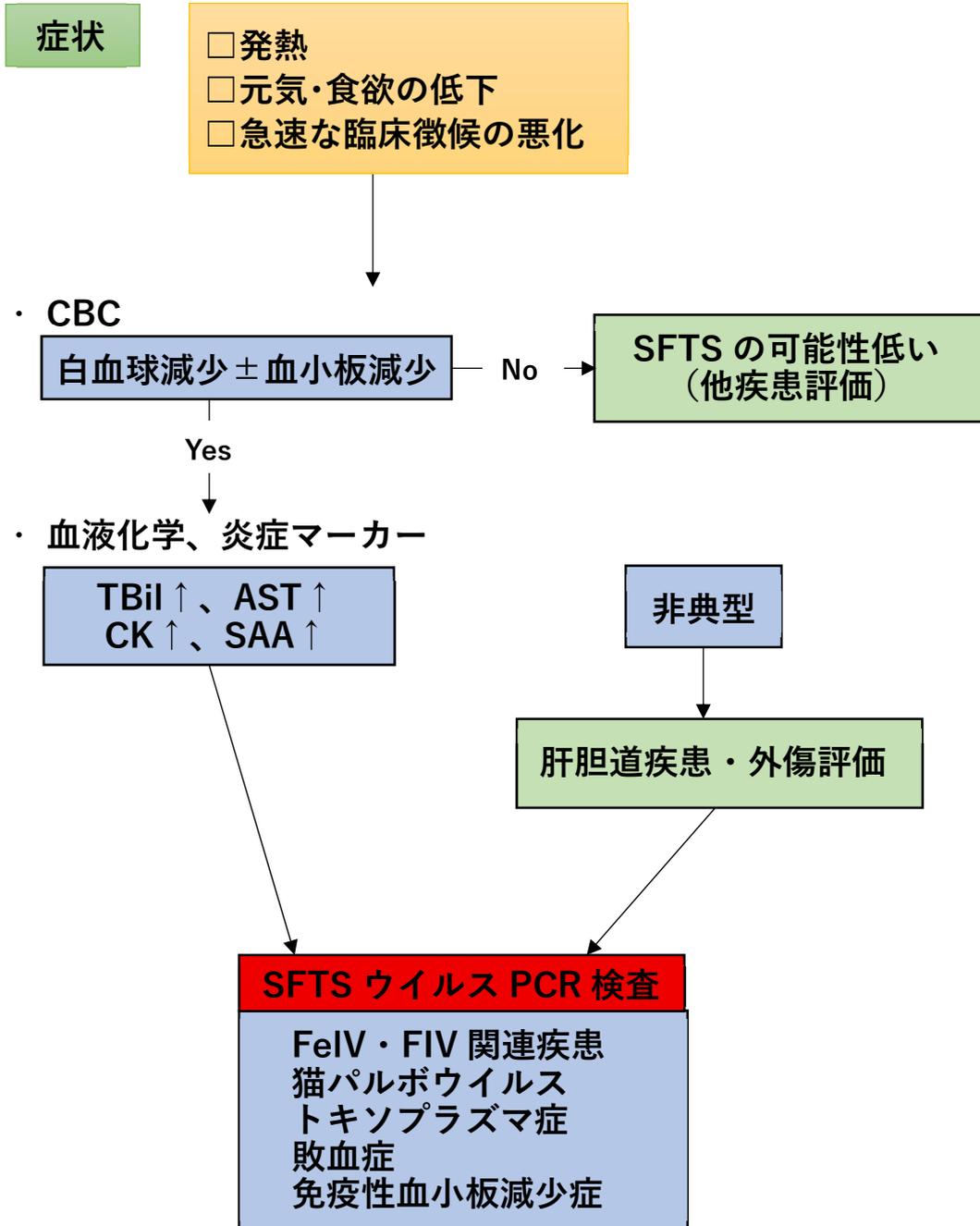
犬

白血球減少症
血小板減少症
AST、CK 高値
CRP 高値

これらを基に次に特異的ウイルス学的検査に進みますが、無駄な検査を行わないためにも、その前に除外しておくべきウイルスその他の感染症、その他の疾患があると思われる。それらの除外の順序を次に示す。

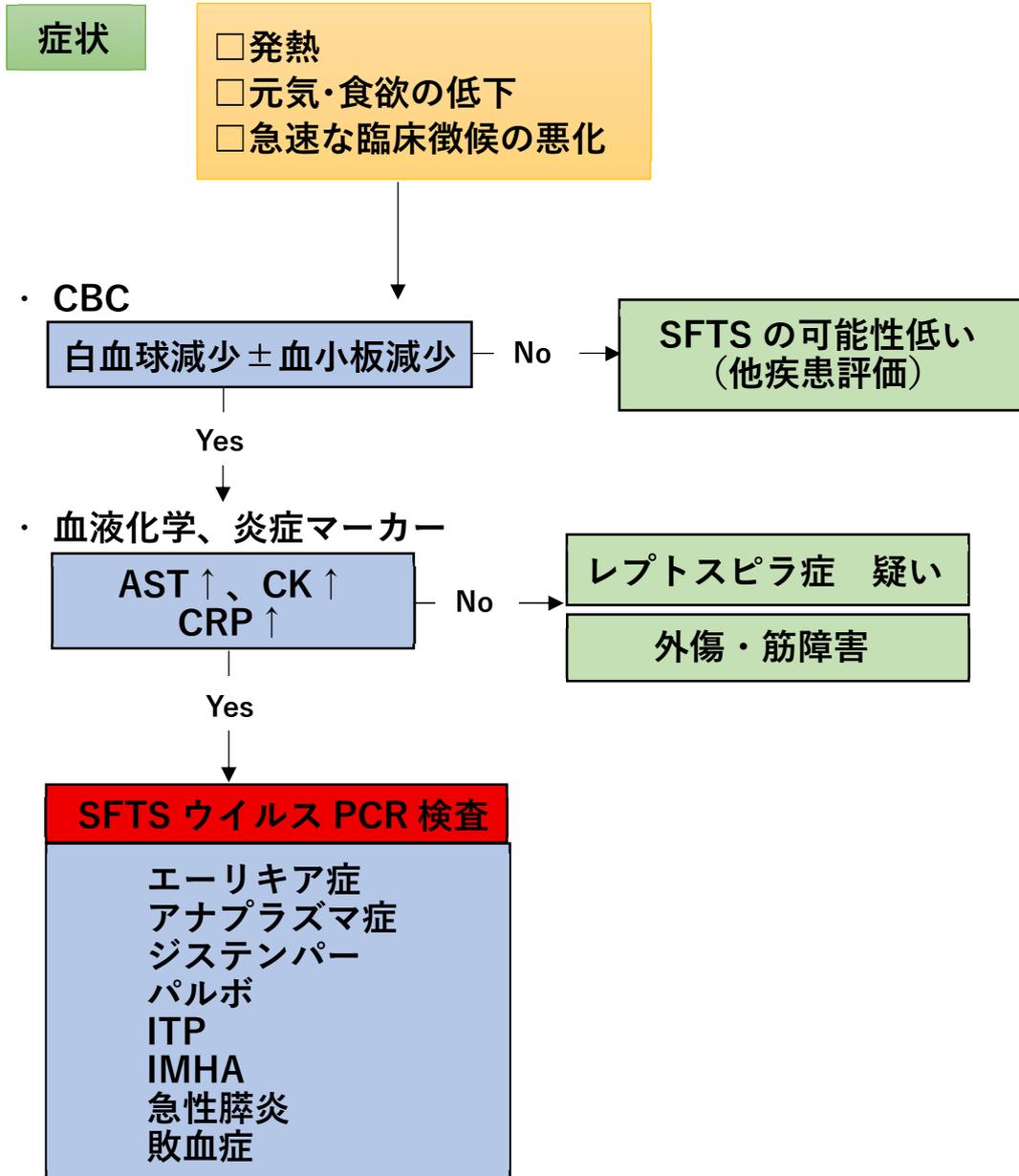
II. 診断フロー (ネコ)

石田卓夫先生 原図



II. 診断フロー (イヌ)

石田卓夫先生 原図



清浄域・汚染域

・清浄域

- 防護具を外した後に立ち入る事務作業場所
(待合室・受付・診察室・検査室など)

・汚染域

- 症例を診療した診察室及び体液の飛散した場所
- ネコ・イヌを収容したキャリーケース及び置いた場所
- 飼い主が触った部分（ドアノブ、椅子など）
- 診療スタッフの動線を追跡

・環境の消毒（消毒薬）

- 70% エタノール
- 1% ビルコン
- 0.5% 次亜塩素酸ナトリウム液

・留意事項

- 他の動物との接触を防ぐため、疑い動物は決まった場所で診療する
- こまめな換気を心がける
- 確定検査結果が判明するまでは、隔離対応を徹底する

詳細は「SFTS 疑いネコ診療マニュアル動画」chapter2～6 をご参照ください。

https://youtu.be/1Pf_0GEeH7o?si=EvQlwuySTPEZnDug



採材・血液検査時の注意点

本会ホームページで公開中の SFTS 疑い猫診療マニュアル動画 (YouTube) もご参照ください

(https://youtu.be/1Pf_0GEeH7o?si=EvQlwuySTPEZnDug)。



・ サンプルチューブ



サンプルチューブを消毒してから清浄域へ移動する。



遠心分離の際に血液で環境を汚染させる恐れがあるため、遠心前にもアルコール綿でフタを消毒する。



フタを外す際には血液などが飛ぶこともあるため、サンプルチューブ外側及びフタを消毒し、さらにアルコール綿で覆いながら外す。



フタの裏側にも血液が付着していることがあるので取り扱いに注意する。

・個人防護具 (PPE)

ペット取り扱い時の防護レベル例

レベル		装具
簡易	★	通常医療着に洗える上着 グローブ、サージカルマスク
弱	★★	メガネ、エプロン(袖なしガウン)、グローブ、サージカルマスク
中	★★★	メガネ、長袖ガウン、グローブ、サージカルマスク
強	★★★★	ゴーグル(フェイスシールド)、キャップ、長袖ガウン+グローブ(袖口をガムテープで補強)、サージカルマスク



重要 !!

- * SFTS を疑う場合は強レベルを推奨します。
- * あらかじめ着脱方法の練習をしておくことが大切です。
- * 接触する際はまず猫の爪切りを！
- * 上記は PPE の一例です。他にも様々な方法があります。

PPPEの着脱で大切なこと

それは脱ぎ方です。

PPPEは使用した表面に病原体が付着していることが考えられます。

そのため、脱ぐ際には汚染が起きないように、慎重に脱ぐ必要があります。

できれば補助の人が脱ぐ際の順序が守られているか、汚染が起きそうになっていないかなどを注意し、声を掛け合って脱ぐといいでしょう。

1. あらかじめ廃棄するための蓋付の容器を用意します。ビニール袋を内側に入れて縁を蓋の外に出しておきます。



2. 脱ぐ場所は清浄区域以外の場所で行います。

3. 先に、袖口とグローブを留めていたガムテープを剥がします。次に、ガウンを手袋もろとも脱ぎます。

①②③

ガウンの紐を外します。図のように横で結んでいる場合は、自身で外して構いませんが、後ろで結んでいる場合には、補助の人に外してもらうといいでしょう。



※説明用の写真では、先にグローブを外しています。

国立感染症研究所獣医科学部 堀田先生原図

4. 肩のところを持って肘までずらし、どちらかの手で、もう片方のガウンの腕部分を持ってグローブごと脱ぎます。この操作はガウンの外側から行います。

5. 脱いだ手で、汚染している側を触らないようにくるくる丸めながら、今度は反対側の手も同様に脱ぎます。その際はガウンの内側から操作を行うよう注意してください。

6. 両方の腕を脱ぐことができたなら、体から離して手を伸ばした状態でさらにガウンを丸めてしまいます。

※説明用の写真では、先にグローブを外しています。



④ 肩から脱ぎ下ろす

⑤ 外側を内側にして巻き、たたむ

⑦ 廃棄する

7.  丸めたガウンは蓋付の容器に廃棄します。

国立感染症研究所獣医科学部 堀田先生原因

8.  一度手指を消毒します。

9.   キャップの外側を触らないように脱ぎ、内側を持って蓋付の容器に廃棄します。

11.   マスクも表面を触らないように外して、蓋付の容器に廃棄します。

 n95マスクの場合は、マスクが反転して顔にぶつからないよう注意しながら、下側のゴムをはずし、次いで上側のゴムを外して廃棄します。

10.   アイシールドを外側を触らないように外し、蓋付の容器に廃棄します。

12.  終わったらすぐに手指を消毒します。

13.   廃棄したPPEはビニール袋の外側を持って結んで廃棄するか、消毒液を入れて浸漬します。

診療後の動物病院スタッフの健康管理

・SFTS 動物対応 2 週間前後に発熱などの「カゼ様症状」を呈し、SFTSV 感染が確認された事例が報告されている。

・SFTS 発症（疑いを含む）動物への対応をしたスタッフは、対応後 2 週間は経過観察する。この期間内に、発熱、倦怠感、頭痛などの症状で発症することが多く、続いて嘔吐、下痢、頭痛などの症状が認められることが多いので、体調がすぐれない場合は、富士フイルム富山化学株式会社へ連絡し、アビガン錠（p.29 参照）を処方可能な近隣医療機関の紹介を受けてください。速やかに受診し、SFTS 発症動物との接触があったことを医師に伝える。

注）アビガン錠は認定を受けている病院のみ処方しています。

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2026 年）」

SFTS の確定検査

SFTS 検査依頼に関して

検査推奨項目とこれまでの症例の傾向
発熱、白血球減少、血小板減少、肝酵素上昇、CK 上昇
T-Bil 上昇（ネコのみ）、黄疸（ネコのみ）、嘔吐、消化器症状

SFTS 検査依頼の仕方のフローチャート

疑い症例の診断
(基本的に診断結果が出るまで入院を薦めてください)

検温・血液検査などの実施（手袋・マスク・ゴーグルの使用）
検査対象かどうかを検討
担当者まで連絡

治療前に採材を実施（**基本的には血清 0.5ml 以上**）
採材後は冷蔵保存
送付まで時間がかかるようであれば冷凍保存

検査依頼書を記入する

密閉できる袋や容器で3重に入れる。依頼書と共に同封する。
冷蔵分で検査機関まで送付する。
冷凍で一時保存したものは冷凍便で送る

診断・採材時は手袋・マスク・ゴーグル着用
検体の取り扱い・汚染に注意
汚染した可能性がある場合は、0.5%次亜塩素酸ナトリウムで消毒

感染リスクが高い事例
発症動物に咬まれた場合
体液・排泄物に汚染された鋭利器材で受傷した場合
体液・排泄物によって粘膜や損傷した皮膚が汚染された場合

感染したか不安な場合
体温測定など 14 日間程度体調管理。発熱などの異常があれば医師に相談

飼い主への指導
発症動物と最後に接触した後、体温測定など 14 日間程度の体調管理。
発熱などの異常があれば医師に相談

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2026 年）」

確定検査依頼先 ※検査依頼する際には東京都獣医師会へご一報ください。

- (1) 国立健康危機管理研究機構 国立感染研究所獣医科学部
前田 健 E-mail : maeda.ke@jih.s.go.jp
※検査に 3～7 日程度かかる場合があります。

- (2) 株式会社サンリツセルコバ検査センター
検体輸送は専用機材を使用。検査依頼要領及び費用については
サンリツセルコバ検査センターまで問い合わせること。
TEL : 03-6666-7631
※検査機関は東京大学です。

検体輸送資材（感染性物質輸送容器）推奨例

商品名：BARRIPOUCH／BARRIABOX

発売元：株式会社スギヤマゲン CoolLab 事業部
東京都墨田区太平 4 -23-10
TEL : 03-6658-5282
HP : <https://www.sugiyama-gen.co.jp/>



一次容器

二次容器

三次容器

配送業者

以下の3配送業者をご利用のうえ、「冷蔵便」にて検査依頼先へ発送する。

- 日本郵便株式会社
- 佐川急便株式会社
- ヤマト運輸株式会社

備考：(株)サンリツセルコバ検査センターに依頼の場合は同社が配送を行う。

梱包手順

(手順動画：

<https://youtu.be/yscT27V0cGQ?si=NfxbUwHAB0u6Zn44>)



①使用する資材（商品名：BARRIAPOUCH／BARRIABOX）

1 次容器：

吸水剤：吸水バッグ6連（BRP-AB6-B）

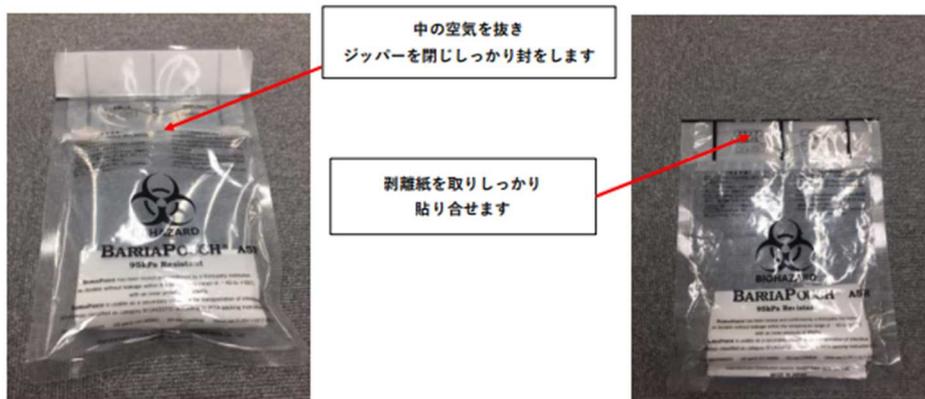
2 次容器：バリアパウチ A5R（BRP-A5R）

3 次容器：バリアボックス5（BRB-5）

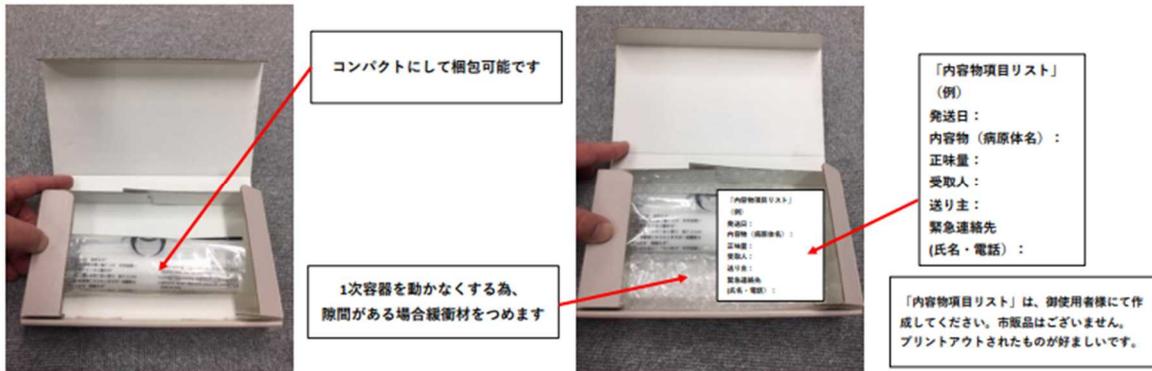
②1次容器を吸収バッグへ入れる



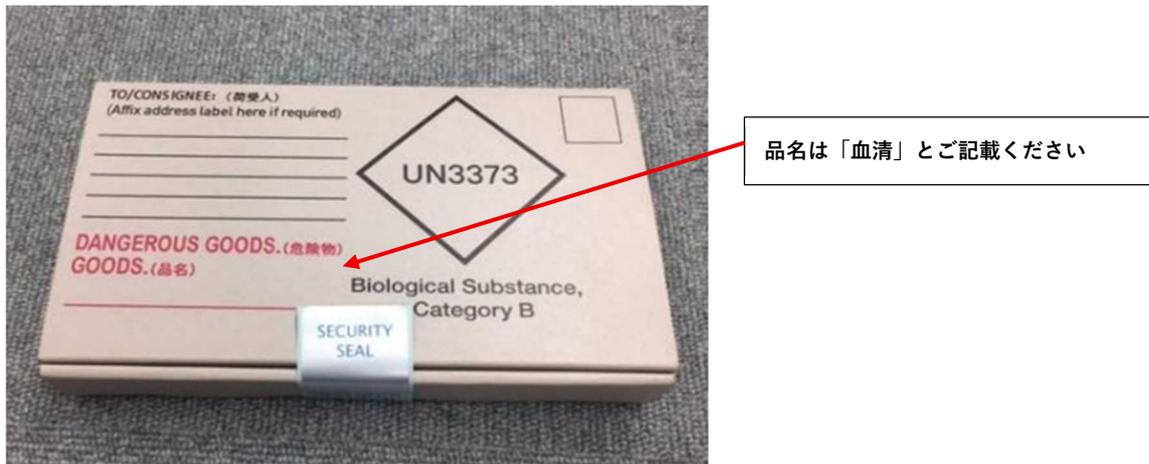
③1次容器を梱包した吸水バッグをバリアパウチへ梱包



④ バリアパウチを3次容器に梱包する



⑤ セキュリティーラベルを貼り、必要事項を記載する



⑥ 3次容器裏面(UN3373の表示がない面)に配送伝票を貼付する。



SFTS 検査依頼書

下記に記入し郵送願います。(□に✓、必要な部分には詳細記載)

依頼病院名			担当者名	
住所 (連絡先)	〒			
	TEL:		FAX:	
	Email:			
検体の種類	<input type="checkbox"/> 血清 <input type="checkbox"/> スワブ (<input type="checkbox"/> 口腔内 <input type="checkbox"/> 肛門)			
検体採取日	年 月 日			
患者(動物)の名前		居住地	都道府県:	市町村:
動物種	<input type="checkbox"/> 犬(種類:) <input type="checkbox"/> 猫(種類:) <input type="checkbox"/> その他()			
年齢	歳 カ月齢	体重:	kg	性別:
飼育環境	<input type="checkbox"/> 室内のみ <input type="checkbox"/> 室内および屋外 <input type="checkbox"/> 主に屋外			
マダニの寄生	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 過去有(年 月頃?)			
ノミ・マダニ予防薬 投与歴	最近の投与		製品名	
	年 月 日			
ワクチン接種歴	接種年月日(最近)		製品名	
	年 月 日			
発症年月日	年 月 日			
症状	<input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 白血球数減少 <input type="checkbox"/> 血小板減少 <input type="checkbox"/> 消化器症状 (<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 嘔吐) <input type="checkbox"/> 元気・食欲低下 <input type="checkbox"/> その他()			
検査データ	発病初期 (月 日)		現在 (月 日)	
発熱 (°C)				
赤血球 (μL)				
白血球 (μL)				
血小板 (μL)				
ALT(GPT) (IU/L)				
AST(GOT) (IU/L)				
CPK(CK) (IU/L)				
T. Bil (mg/dL)				
その他 ()				
その他 ()				
その他 ()				
発症からの経過 気付いた点				

回復動物の経過



退院のタイミング

一般状態が改善した後もしばらくはウイルス排泄が起こる。その期間には個体差があるため、3-7日毎に再検査を実施し2回血中ウイルス遺伝子が陰転化したら退院とする。しかし、リスクが軽減されただけで、確実ではないことを伝え、しばらく濃厚接触を避けるように伝える。また、イヌでは尿中にウイルスが長期間排出することが知られており、注意が必要である。

退院時の説明資料

退院後の生活について

SFTS から回復した動物の体からは徐々にウイルスが消失していきます。遺伝子検査で陰性が2回確認できた場合、ウイルスはほぼ消失していると考えられますが、確実にゼロというわけではありません。

自宅に帰った後も1週間程度はケージ内で飼育し、濃厚接触は避けてください。

同居する動物がいる場合は直接接触させないようにしてください。

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所

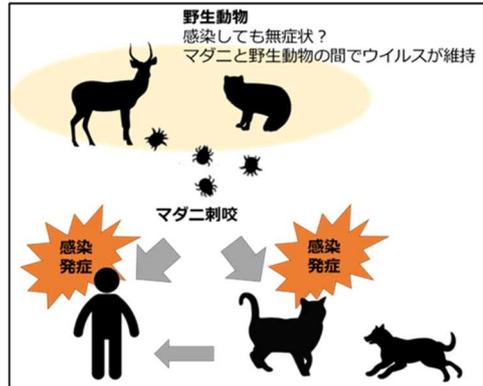
「獣医療関係者のSFTS発症動物対策について（2026年）」

飼い主へ説明しておく方が望ましいと 思われる項目

① 診断時説明資料「動物が SFTS と診断されたら」

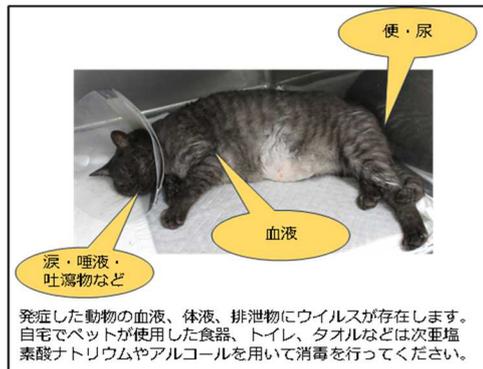
動物が SFTS と診断されたら

SFTS ウイルスは人と動物のどちらにも重い病気を引き起こします。本来はマダニに刺されることで感染しますが、最近では SFTS を発症した動物から人へ感染するケースが増えています。人が感染すると集中治療が必要なほど重篤化することがあり、大変危険です。飼主様ご自身の健康を守るために、以下の点についてご理解とご協力をお願いします。



【感染拡大を防ぐために】

SFTS を発症した動物の血液、体液（涙や唾液）、排泄物（尿や便）、嘔吐物にはウイルスが大量に含まれます。感染を拡大しないために、SFTS と診断された動物は、他の人や動物と接触しないように隔離し、治療を行う必要があります。主治医とご相談の上、原則動物病院での入院治療をご検討ください。



【ご家族の健康管理について】

ヒトの潜伏期間は約 6-14 日間です。最後に直接接触してから 14 日間は飼主様及びご家族の体調に十分ご注意ください。毎日体温を測定し、次の症状が現れた場合には速やかに医療機関を受診してください。

- 発熱
- 消化器症状（腹痛、嘔吐、下痢）
- 頭痛
- 筋肉痛など

受診の際には飼っている動物が SFTS と診断されたことを医師に伝えてください。皆様の安全のため、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所

「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2026 年）」

②SFTS について (p.1 参照)

③治療を受けない場合のリスク

④費用について

⑤当院で治療ができない場合

⑥転院について

転院先については東京都獣医師会へご相談ください。

※②～⑥の詳細については、本会顧問弁護士である、フラクタル法律事務所田村先生に協力をいただき、上記を元にした「SFTS 疑い事例の診療同意書」(20p～21p)を参照。

補足資料：やむを得ず自宅で管理する場合の飼い主への注意事項

**自宅で管理する場合の飼い主への指導事項
(SFTSが疑われた時点で原則入院を推奨すること)**

飼育環境

- ・ ケージ内に隔離
- ・ 絶対に素手で動物や体液を触らない
- ・ 処置の際にはグローブ、マスク、メガネを装着する
- ・ 世話をする人を限定する
- ・ 手洗いを徹底する
- ・ トイレやケージは塩素系消毒薬で消毒
- ・ 同居動物がいる場合には動物同士が直接接触しないように工夫する

予想される経過

- ・ 数日以内に痙攣発作を起こすことがある(発作中に咬まれたり飛散した体液に触れないように注意)
- ・ 見た目には回復しているように見えてもウイルスの排泄は数週間ほど持続する。必ず動物病院を再診し、再検査によりウイルスの陰転を確認する。

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について(2026年)」

SFTS 疑い事例の診療同意書

ペット名：_____ちゃん カルテNo：_____

動物種：犬・猫 その他（_____） 生年月日：_____年 _____月 _____日（ _____才）

性別：オス、メス、去勢オス、避妊メス

上記ペットについて、SFTS の疑いがあることから、以下ご説明申し上げます。内容をよく読んでいただき、疑問点は獣医師に質問し、ご理解されたうえで署名をお願いいたします。

第1 SFTS について

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、マダニにより媒介される SFTS ウイルスによる感染症です。感染したネコやイヌからも人に感染することが報告されています。

人に感染した場合の致死率は 27%と報告されており、獣医師の死亡事例もあります。

ネコでは致死率は約 60%とされています。

イヌでは致死率は約 40%とされています。

（国立健康危機管理研究機構獣医科学部，2025）

現時点で伴侶動物における治療法は、対症療法のみとなります。

第2 当院で治療出来ない場合について

SFTS の危険性に鑑みると、個人防護服（PPE）の準備や感染動物の入院管理施設の確保などの SFTS 対策が無い動物病院については、獣医師及び愛玩動物看護師、スタッフ、またお預かり中の動物や他の飼い主様の死亡リスクが現実的に考えられます。

獣医師及び愛玩動物看護師、スタッフ、お預かり中の動物や他の飼い主様がお亡くなりになった場合、動物病院の安全配慮義務違反として、動物病院が感染されたご本人や飼い主様やご遺族様に賠償責任を負担する可能性もあります（過去には新型コロナウイルスの感染につき、雇用主に責任を認めた判例も存在します）

上記のように生命及び財産的損害が生じる可能性が具体的に存在することを前提とすると、対応が不可能な動物病院には、SFTS 疑い症例に対して、獣医師法 19 条に定める診療を拒む正当な理由があると考えられます。

よって、獣医師の判断で診療を最初から、又は途中からお断りする可能性がございます。

第3 転院について

診療をお断りする場合には転院先をお伝えいたしますが、SFTS症例の受け入れ可能な転院先が限られていることから、移動に伴うペットの健康への負担や飼い主様への時間的負担が生じ

ることは予めご了承ください。

SFTS に対応できる動物病院において動物に適切な診療を提供し、人や動物の生命を守るためにもご理解いただきますようお願いいたします。

第4 治療を受けないリスクについて

SFTS は危険性の高い人畜共通感染症であるため、動物の生命及び飼い主様の生命身体を守るために適切な転院先にて治療することをお勧めします。

治療されない場合、ペットが死亡するだけでなく、飼い主様が SFTS に感染して死亡する可能性や、他の動物も SFTS に感染して死亡する可能性があります。また、体液を介した人から人への感染例も確認されており、他人への感染の可能性が無いとはいえ、その場合死亡する可能性があります。

治療されない場合、このような人及び動物への生命身体へのリスクは飼い主様の判断結果として受け入れていただくこととなります。

第5 費用について

SFTS 疑いの症例を動物病院で診療する場合、個人防護服（PPE）加熱滅菌処理、消毒といった対応が必要になります。このような SFTS 疑いの症例に対応するための費用を通常の診察料に加えて飼い主様にご負担いただきます。

また、転院先の診療施設の治療費や個人防護服（PPE）加熱滅菌処理、消毒等も飼い主様にご負担をいただくこととなります。

追加費用はおおよそ（ ）円となります。

これらは、仮に確定診断の結果 SFTS と診断されなかった場合でも発生する実費であり、飼い主様にご負担いただくことをご了承ください。

院長	動物病院 宛
上記のとおり、獣医師からの説明を受け、内容を理解したうえで診療を申し込みます。	
年 月 日	
ご家族様のご住所： _____	
ご家族様のご署名： _____	

Pet Sign 本同意書は（公社）東京都獣医師会顧問弁護士事務所フラクタル法律事務所が作成いたしました。獣医師と飼い主がより良いコミュニケーションをとるためのオンライン同意書（説明書）サービス Pet sign 提供中

東京都獣医師会ホームページよりダウンロードできます→



死体の取り扱い

SFTS により死亡した動物の死体由来の体液にも多くのウイルスが含まれるため、死体の取扱いにも十分に注意する。天然孔からの体液漏出に備え、死体は吸水性の資材（ペットシートなど）で直接包み、ビニール袋で3重に包んだ後、簡易棺や段ボール箱などに入れる。飼い主、葬儀業者関係者などにもリスクがあることを伝える。

箱の表面を汚染しないように注意する。環境中への汚染を考慮すると、土葬は極力控え火葬が推奨される。業者や役所に依頼して火葬する際、感染性である旨を伝え、火葬まで梱包を開けないよう注意する。やむを得ず自宅敷地内などに埋葬する場合には、野生動物によって掘り返されないよう穴を深く掘り、消石灰（ホームセンター等で園芸用品として市販されているもの）をまいてから土で覆うよう指導する。

手指衛生の原則である「一処置一手指衛生」を守り、処置後のグローブ消毒を行い、グローブ着脱後にも必ず手指衛生を行う。

死体の梱包



死後に天然孔から体液が漏出することがあるため、死体は吸水性の資材で包み、移動の際に漏れないよう十分注意する

※写真の症例は消化管内の出血が逆流し、鼻腔や口腔から漏出していた



①ペットシート等で包む



②ビニール袋で3重に包む



③箱に入れ、さらにビニール袋で覆い、消毒液をスプレーする

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2026 年）」

SFTS の関係法令

(1) ネコやイヌの場合

・家畜伝染病予防法

家畜伝染病予防法で定義されている監視伝染病（家畜伝染病及び届出伝染病）に SFTS は該当しないため、獣医師等に発生時の届出義務はない。

・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）

感染症法においても動物の SFTS に関しては獣医師等に法的な届出義務等はないのが現状である。

しかし、SFTS はヒトと動物の共通感染症でありヒトの致死率も高く、特にネコやイヌはヒトと密接に暮らしており公衆衛生上の危害が生ずる可能性が高いことから、SFTS 罹患動物及び本病感染疑い症例については情報の共有が非常に重要。

については、法的な届出義務はありませんが、当面 SFTS を疑う症例発見時には東京都獣医師会へ速やかに連絡してください。本会では必要に応じ獣医師への支援や東京都の所管部署と情報を共有し、公衆衛生上の危害が生じないように努める。

(2) ヒトの場合

・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）

感染症法において、ヒトの SFTS は四類感染症に分類されており、SFTS に感染した患者（ヒト）を診断した医師は、直ちに最寄りの保健所への届出が義務付けられている。

参考資料

・飼い主向け啓発ポスター



人と動物の共通感染症

マダニから感染するSFTSに注意！

(SFTS:重症熱性血小板減少症候群)

■ネコ ■イヌ

年	ネコ	イヌ
2017年	10	0
2018年	70	0
2019年	110	0
2020年	100	0
2021年	130	0
2022年	180	0
2023年	190	0
2024年	200	0
2025年	240	20

関東にもSFTSが広がっています

- マダニが媒介します
- ネコ、イヌおよびヒトに感染します
- ネコ、イヌともに致死率の高い感染症です
- 発症動物の体液を介してもヒトに感染します
- ワクチンもありません
- 年々発生数が増えています

■ネコ ■イヌ

月	ネコ	イヌ
1月	50	0
2月	100	0
3月	180	10
4月	180	10
5月	170	10
6月	110	10
7月	60	0
8月	60	0
9月	60	0
10月	110	0
11月	80	0
12月	70	0

飼い主様にお願いしたい対策

- 通年のマダニ駆除をしましょう
- 外出後はブラッシングなどを行い、体のチェックをしましょう
- マダニを見つけた場合には、かかりつけ動物病院を受診してください
- 排泄物処理後は、手洗いをしましょう
- ペットとの過度な接触は避けましょう

野生動物 → マダニ → ネコ イヌ → ヒト

吸血後

詳細についてはかかりつけの獣医師にご相談するか、下記サイトをご確認ください。

→ 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/12668-sfts-ra-0801.html>

公益社団法人 東京都獣医師会
 TEL : 03-3475-1701 / FAX : 03-3405-0150

・鑑別診断リスト

引用：石田卓夫「伴侶動物の臨床病理学 第3版」

- ① リンパ球減少症
 - グルココルチコイド（循環からの消失）
 - 内因性
 - クッシング症候群
 - ストレス
 - 外因性
 - 投薬
 - 消耗性疾患
 - 慢性感染症
 - 腫瘍転移
 - 進行した腎臓病
 - アミロイドーシス
 - 消費亢進
 - 乳び吸引
 - 腸リンパ管拡張症
 - 破壊
 - ジステンパー
 - 猫白血病ウイルス
 - 猫免疫不全ウイルス
 - 犬伝染性肝炎
 - グルココルチコイド
 - 放射線
 - 免疫抑制剤
 - 産生減少
 - 化学療法
 - 先天性T細胞欠損症
 - 猫白血病ウイルス
 - 猫免疫不全ウイルス
- ② 好酸球減少症
 - グルココルチコイド
 - 内因性
 - クッシング症候群
 - ストレス
 - 外因性
 - 投薬
- ③ 好中球減少症
 - 消費亢進
 - 過急性細菌感染
 - 蜂窩織炎
 - 誤嚥性肺炎
 - 腹膜炎

急性ウイルス感染
エンドトキシン（分布異常）
産生減少
感染性
汎白血球減少症
犬パルボウイルス
エーリッヒア
猫白血病ウイルス
化学薬品など
真菌毒素
エストロゲン
抗生物質
クロラムフェニコール
ストレプトマイシン
ペニシリン
抗真菌薬
グリセオフルビン
鎮痛薬
アスピリン
フェナセチン
フェニルブタゾン
アンチピリン
抗ヒスタミン薬
ピリベンザミン
抗痙攣薬
プリミドン
ディランチン
抗甲状腺薬
チアマゾール
細胞障害性薬物
シクロホスファミド
6-メルカプトプリン
塩酸ドキシソルビシン
金属
鉛
タリウム
水銀
ひ素
遺伝性
周期性造血
骨髄癆
骨髄の増殖性疾患

- ④ 血小板減少
 - 產生減少
 - 遺伝性
 - 後天性
 - 薬物中毒
 - マイコトキシン中毒
 - エストロゲン中毒（セルトリ細胞腫など）
 - X線障害
 - ウイルス感染
 - リケッチア・原虫感染
 - ビタミン B12・葉酸欠乏
 - 尿毒症
 - 骨髓癆（白血病）
 - 骨髓線維症
 - 再生不良性貧血
 - 激しい鉄欠乏
 - 破裂・消費の亢進
 - 免疫介在性
 - 自己免疫疾患、ほかの免疫疾患との複合、薬物、感染、その他を含む
 - 非免疫学的破壊
 - アナフィラキシー
 - 播種性血管内凝固症候群
 - 微小血管障害
 - 急性感染
 - エンドトキシン
 - 先天性血小板構造障害
 - 分布の異常
 - 脾腫
 - 高体温
 - 門脈高血圧
 - 体外への喪失
 - 大出血
 - 瀉血

- ⑤ CK 上昇
 - 筋肉損傷
 - 筋炎
 - 口腔内病変
 - 栄養性・変性性筋疾患
 - 心筋梗塞

- ⑥ SAA 上昇
 - 上昇しやすい疾患
 - 上部気道感染症

肺炎
子宮蓄膿症
猫伝染性腹膜炎 (FIP)
外傷
上昇にばらつきのある疾患
歯肉炎
胃腸炎
肝炎／胆管炎
膵炎
下部尿路疾患
腫瘍 (固形腫瘍およびリンパ腫)
非炎症性だが上昇する場合があると報告された疾患
慢性腎臓病
糖尿病 (糖尿病性ケトアシドーシス)
甲状腺機能亢進症

引用：富士フイルム VET システムズ株式会社

動物医療コラム

猫 SAA とは？：猫の炎症マーカー血清アミロイド A

⑦ CRP 上昇

ボルデテラ・ブロンコセプティカ感染症
吸引性気管支肺炎
ライシュマニア症
ブルーストリパノソーマ
バベシア症
犬糸状菌症
パルボウイルス
円板状エリテマトーデス
IMHA
IMTP
免疫媒介性多発性関節炎
SRMA
IBD
食事反応性腸症
抗菌薬反応性腸症
急性膵炎
子宮蓄膿症
嚢胞性子宮内膜過形成

引用：富士フイルム VET システムズ株式会社 提供

National Library of Medicine

「C-Reactive Protein as a Diagnostic Marker in Dogs」

・【補足資料】 富士フィルム富山化学株式会社 提供

SFTS 発症（疑いを含む）動物に対応した医療従事者の皆様へ

<p>ファビピラビル 商品名：アビガン錠 200mg</p> <p>2014.3.24 承認, 2024.6.24 SFTS に対する効能追加</p> <p>禁忌 ・妊婦又は妊娠している可能性のある女性 ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p>	
--	--

SFTS ウイルス感染症に対して「アビガン®錠 200mg」が
世界で初めてヒトへの治療薬として承認されました。
(2025 年 7 月現在)

※注意：動物用医薬品ではありません。動物病院では購入できません

* アビガン錠の添付文書では、
「SFTS ウイルス感染症の症状の発現後速やかに投与を開始すること」
とされています。

◆アビガン錠について、情報が必要な場合は、
富士フィルム富山化学株式会社 製品情報センターまでお問い合わせ
下さい。

<p><富士フィルム富山化学 製品情報センター> フリーダイヤル : 0120-502-620 受付時間 : 9:00~17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休業日を除く)</p>

引用：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2026 年）」

参考(引用)文献

- ・ 国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
「獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について (2026 年)」
https://www.niid.jihs.go.jp/content2/research_department/vet/animal-borne-2_ver2026-03-09.pdf
- ・ 厚生労働省
「重症熱性血小板減少症候群 診療の手引き 2025 年版」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001229138.pdf>
- ・ 石田卓夫「伴侶動物の臨床病理学 第3版」株式会社緑書房
- ・ 富士フイルム VET システムズ株式会社 動物医療コラム
「猫 SAA とは? : 猫の炎症マーカー血清アミロイド A」
https://www.fujifilm.com/jp/ja/healthcare/veterinary/column/cl-tm-fe-about_saa
- ・ National Library of Medicine
「C-Reactive Protein as a Diagnostic Marker in Dogs」
<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC9598812/>

SFTS 疑いネコ・イヌの診療簡易マニュアル

－改訂版－

2026年3月発行

編集・発行 公益社団法人 東京都獣医師会
東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 23 階
電話 03-3475-1701
URL <https://www.tvma.or.jp>